

公民協働で

— 門真市 —

文化芸術あふれるまちづくり

2月17日、「みんなでつくる門真の第九」コンサートが開催され、195人の市民合唱団と観客の歌声がルミエールホールに響き渡った。市民と市職員が立ち上げた「アトリーグ」のプロジェクトだ。例年開催して今回で5年目。すっかり門真の名物行事となった「アトリーグ」のコンセプトは、門真市を文化芸術あふれるまちにしたい。昨年は、「みんながつくるアート百選」の絵画展を開催。公民協働事業は順調だ。

来年4月にルミエールホールがリニューアルオープン

4月から1年間、リフレッシュ工事で。休館になるルミエールホールの指定管理者・NPO法人トイボックスは、アトリーグに加わり、市民の実行委員会と協働事業を進めてきた。まちかどまちなかコンサートやアウトリーチ事業（出前授業）を主催。館外での活動が顕著だ。なぜ館の維持管理だけでなく、ホー

ル外で事業をするのか。トイボックス代表理事の栗田拓さんにお聞きした。「指定管理者の役目は文化の担い手を育てることだと思っています。まちかどまちなかコンサートやプロの演奏家を小学校に派遣するアウトリーチ事業など、市民や小学生が直接音楽芸術に触れ、興味を持ち、好きになるきっかけ作りになればと実施しています。

我々の思いを共有している門真市は『文化の香りがするまち』をともに創る先見性のある自治体です」と栗田さん。シティブランディングに無駄なお金を投じる自治体もあるなか、企画段階からトイボックスが加わり、民間の独自ノウハウで効率的な運営を目ざす。栗田さんは「文化の香りがするまちに必ず人はやってくる」と、胸を張る。この公民協働事業から目が離せない。



みんなでつくる門真の第九



アウトリーチ活動で良質の音楽を